

令和3年度

つながりひろがる地域づくり事業  
市民協働事業提案制度実施事業

報告書



## 令和3年度 つながりひろがる地域づくり事業

No.	事業名	実施団体名	ページ
1	安曇野の子どもを育てよう	こちょこちょの会	2
2	安曇野市内里山整備と明科天田山神社周辺の桜の植樹	あづみの樹楽会	4
3	自然農を学び、実践し、楽しもう	Eisbar Platz (アイスベア プラッツ)	10
4	エジソンの母塾	学習支援センター実帰舎	14
5	食と健康の情報発信	食養生研究会	18
6	岩原のタカラをガイドブック片手に楽し	岩原の自然と文化を守り育てる会	21
7	尺八・やってる会	尺八・やってる会	22
8	古厩を中心に歴史や文化遺産を明らかにし、ひいては有明地域の文化遺産への関心を高める	ふるさとの歴史や文化をたずねる会	26

## 令和3年度 市民協働事業提案制度実施事業

No.	事業名	実施団体名	ページ
1	アズミノミライcafé	あづみのファシリテーション部 地域づくり課	28
2	明科駅周辺まちあるき空き家空き店舗見学会	明科駅周辺まちづくり委員会 環境課	-
3	「安曇野”住まいの終活のススメ”事業」	NEX-T安曇野 環境課	-

※2,3の事業については3月12日開催の安曇野市空き家啓発講演会・協働事業活動報告会において報告が行われます。

## 事業名 安曇野の子どもを育てよう

団体名	こちょこちょの会		
代表者名	赤沼美奈子	構成人数	10人
活動拠点所在地	三郷農村環境改善センター		
事業実施総額	628,120円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	謝礼、備品購入		
事業実施日・期間	4月10日~3月13日		
事業概要・成果	<p>① 親子講座</p> <p>令和3年：4/12・4/26・5/25・6/27・7/27・9/21・10/25・11/29・12/21・令和4年：1/18・2/7・3/7（R3/8/30 コロナ感染対策の為中止）</p> <p>毎回子育て中のお母さんやおばあちゃん、子育てに関心のある方が「心と身体の発達」について学び合いました。日々家でもできるようにわらべ歌やふれあい遊びを行ったり、目の前の子どもたちの行動から実際にどう関わったらいいか等、テキストを参考に実践を通して学びました。</p> <p>又、今年度からスタッフがお母さんにハンドマッサージをしながらお話をお聞きする時間を作り、お母さん方から「とても癒される」「子育てを頑張れる」等喜ばれました。</p> <p>角田春高先生にも2回お越しいただき、参加者やスタッフに助言、指導をいただきました。お母さん方にも喜ばれ、スタッフにも新しい気付きがあり、その後の活動に役立ちました。</p> <p>② 例検討会</p> <p>令和3年：4/24・5/29・6/26・7/31・7/31 自主勉強会。8/28 (zoom)・10/2 (zoom)・11/6 (zoom) 12/4・1/29 (zoom)・3/5</p> <p>会員が実際に関わっている事例について発表し、ともに学び、角田春高先生からアドバイスをいただきました。コロナ感染対策として今年度は、密を避けて自主勉強会を行ったり、zoomで開催をしました。それぞれの環境で参加状況に差もありましたが、継続して学ぶことができ有難い、という声がありました。</p>		

### ③ 講演会

令和3年(8/28中止) 12/5

育て直し、育ち直しアドバイザーの角田春高先生を招き「あづみ野発みらい行き子育て」という演題で、赤ちゃんが大人になる道筋を、心の発達を軸にお話しいただきました。8月はコロナ感染対策の為に中止にしましたが、直前まで参加申し込みの連絡をいただきました。講演会はできませんでしたが、参加申し込みの方が事例検討会に参加してくれるようになりました。

### ④ 個別相談

昨年講演会がきっかけで個別相談の申し込みがあり、その後ひと月に1回1時間行っています。1組は小学生のお子さんの相談。もう1組は成人になられたお子さんの相談です。日常生活の事例から、言葉のかけ方、関わり方をお話しています。

### ⑤ 冊子作成

昨年度作成した子育ての参考となる子育て冊子「あづみ野発みらい行き子育て」を更に加筆修正しより分かりやすく、具体的にした増補版を作成。より分かりやすくなったと好評です。

又、親子講座の参加者に協力を得て、心と身体の発達をまとめた、わらべうたとふれあい遊びのテキストを作成。家でもできるとお母さん方から喜ばれています。

\*冊子を活用し、講座や会員の資質向上を図りたいと思っています。更に他の団体さんとなつなごったりしながら会を充実させ、心身ともに健やかな安曇野の子どもを育てるお手伝いをしていきたいと思ひます。

## 今後の展開



## 事業名 安曇野市内里山整備と明科天田山神社周辺の桜の植樹

団体名	あづみの樹楽会		
代表者名	渡辺 晃	構成人数	15名
活動拠点所在地	安曇野市内及び明科		
事業実施総額	260,000	補助金額	130,000
主な補助金使途	活動保険代・ガソリンオイル・機器購入・講師指導料など。		
事業実施日・期間	2021年4月6日～2022年3月31日		
事業概要・成果	<p>1. 活動状況は、会員15名と会員外の人7名を含めて、2021年4月より2022年1月末までに、活動日57日、延べ人数282名でした。</p> <p>2. 活動の計画と実績（成果）は、別紙1（3頁）に記載します。</p>		
今後の展開	<p>活動の幅が広がっていますが、主な活動は下記を中心に進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 明科天田山の桜の植樹と周辺整備</li> <li>2. 保安林をはじめとする里山整備</li> <li>3. 鳥獣被害対策としての木の伐採活動</li> <li>4. 木の有効活用：木工作家とのコラボ、ふるさと納税返礼品の拡充</li> <li>5. 学校林整備や講習会などの地域貢献</li> </ol>		

## 本年の活動

里山整備・鳥獣被害対策

明科の保安林整備

明科天田山周辺や保安林の整備と、鳥獣被害対策として、猿の餌となる栗・ナラ・桜などの木を伐採しました。

人の手が入らず、放置され、倒木など荒れた明科の保安林の間伐作業を行いました。

昨年に続き、山主さんと現場に入り、境界を確認します。

県に伐採届を出して、許可が下りてから、伐採を始めます。



整備前の保安林

写真上のように、倒木や掛かり木が、道をふさいでいます。

間伐後の保安林は、光も入って、きれいになりました。

昨年、一昨年整備した山主さんの紹介で、隣の山の整備に繋がりました。



整備後の保安林

鳥獣被害対策の伐採活動



悠生寮 桜伐採



アルタス栗の木伐採

猿の餌となるクリの木やナラ、桜の木を実費で伐ります。と新聞で呼びかけたところ、堀金のアルタス、穂高悠生寮、アルプスあづみの公園を始め、個人の方等から問い合わせがあり、会の技量にあった6案件を手掛けました。ボランティアが手掛ける個別の案件でなく、電気柵周辺の維持管理を含めて、地区や行政が主体になって、当会も協力できれば、一層の効果が見込めるのではと考えます。

天田神社周辺の整備

天田神社周辺の草刈りや、道の倒木処理、神殿の清掃や正月飾りなど、例年通り取り組みました。散逸していた馬頭観音などを、掘り出し、1ヶ所に集めました。登山道に、休憩用のイスを設置しました。



しめ縄で正月飾り



馬頭観音



設置したイスで休憩

桜の植樹活動

3年目となる桜の植樹活動。鹿に食べられた苗や枯れた苗を新たに植え替えました。苗は、全て周囲に柵を巡らせ周囲の草刈りや、水やりなど育成を進めています。



伐採後地に桜の苗植樹

市民との交流  
伐倒講習会

樹楽会サポーターや、さとぷろ。サポーターからの木を伐る機会が欲しい。安全な伐り方をお教してほしいという要望に応じて、松本林業士会から講師を迎えて、伐倒講習会を企画しました。一人ひとり、実技では木を伐倒し、会員の安全作業の再確認や技術向上にも繋がりました。



伐採の指導



会員と参加者

薪造り講習会

初心者向けに、安全なチェーンソーの使い方や玉切りの仕方、目立てなどマンツーマンで、講習を行いました。玉切りし、斧や薪割り機で作った薪は、持ち帰り頂きました。

各講習会は、参加者を6名としましたが、申し込み者が多く、次回を期待する声がありました。



### アルプスあづみの公園 イベント協力

多数の家族の参加で猿の事を学習をし、さるかに合戦の紙芝居を見て、栗拾いを楽しみ、その後公園内の猿の餌となるクリの木を伐採しました。クリの木は、また萌芽し、再生できるような高さで伐採しました。今後も、公園の取り組みに、協力していきたいと思います。



### 穂高西中学校林間伐作業



つなひろの交流会で、知り合った地域コーディネーターの方の依頼で、学校林の間伐ボランティアに講師として参加しました。あいにくの雨の中でしたが、中学生が、地元の山や森林の事を知り、木を伐る作業を通じて、何かひとつでも、心に残る体験になればと。

### 市民活動フェスタと里山市

市の主催する里山市と市民活動フェスタに出展しました。



### おかえり思い出の樹 プロジェクト ふるさと納税返礼品

所有者にとって、思い出がある大切な木を、クラフト作品にして残そうと、おかえり思い出の樹プロジェクトを立ち上げました。伐採した栗の木や桜の木を使って、ボールペンを作り、木の持ち主に贈ると共に、市のふるさと納税返礼品として、採用されました。それが、税収増に繋がり、補助金を受け取るだけでなく、つなひろ活動の一助になればと期待します。



	計画と実績 (⇒以下記載)
<b>1 公共性</b> ①市民の皆さんに活動や事業の周知(広報などを)をどのように行いますか。	市の主催する、さとぷろ学校、里山フォーラムで活動を発表すると共に、長野県のブログ『ナガブロ』に活動状況を発信する。活動は、さとぷろ。HP 等でお知らせする。 ⇒里山フォーラムは中止。里山市へ出展し、活動を紹介した。ナガブロに加え、Facebook を開始。さとぷろ。Facebook には活動内容を紹介した。
②事業へ多くの市民の皆さんの参加を得るため、どのような工夫をしていますか。	イベントの中身を分かりやすく紹介する。さとぷろ。など、活動を紹介してもらう。桜の苗植樹の際は、子供たちも参加できるように、安全面に留意する。 ⇒イベントの紹介は、さとぷろ。サポーターや樹楽会サポーターに案内した。 桜植樹は、コロナ禍のため、有志での実施となった。 新たに市民向けに、伐倒講習会・薪造り講習会を実施した。 参加者各6名。つなひろの補助金事業であることを紹介。
③特定の個人や団体の利益活動ではなく、事業の成果はどのように地域に還元されますか。	明科だけでなく、市民の新たな憩いの場を目指す。 ⇒整備した所が、山歩きや、キノコの採取などで訪れる人がいる事は、確認できているが、詳細の数は不明。
④当該事業は、市民の皆さんのどのような要望(ニーズ等)によるものですか。	里山や神社周辺を整備してほしい。 ⇒期待に応えられた。地元の人声「散歩をしたり、山歩きをするのいい道になっている。昔はこの神社で祭礼があった」など。
⑤当該事業で、地域の皆さんに受け入れられ、幅広く共感を得られるため、どのような工夫をしていますか。	①県内向けのブログ『ナガブロ』に活動を紹介する。 ⇒ナガブロに加え、Facebook を始めた。 ②公民館に活動の案内チラシを置いてもらう。 ⇒桜の植樹イベントは、有志としたため、置かなかった。 市の里山市に出展し、活動を紹介 市民活動フェスタにパネル展示 ③さとぷろ。に活動をPRする。 ⇒さとぷろ。Facebook で活動を紹介 活動の様子を、新聞に掲載。市民タイムス・MG プレス
<b>2 交流</b> ①世代間等、幅広い交流をどのように計画していますか。	市のさとぷろ。サポーターや、公民館にて活動参加を呼び掛ける。地域の参加者と会員とで将来の姿を話し合い、作業方法を教え、継続できるようにする。 ⇒新たな参加者が3名増(2021.1月10日現在)
②他団体との交流をどのように計画していますか。	さとぷろサポーターに参加を呼びかける。桜の苗植樹を継続できれば、次年度以降花見と交流の場所となる。 ⇒桜の植樹イベントは、コロナ禍の中で有志の活動にしたため、呼びかけは行わなかった。 アルプスあづみの公園のイベントに協力 穂高西中の学校林整備に参加

<p><b>3 発展性</b></p> <p>①この事業を通じた将来的な目標(目的)は何ですか。</p>	<p>①明科の里山を市民の手が入った憩える場所とする。 ⇒桜の植樹や里山整備は、計画通り実施できた。</p> <p>②桜の名所として復活させたい。 ⇒枯れた苗を新しく植樹。     柵で覆った1年目の桜の苗は、順調に生育している。</p>
<p>②既存事業に新たな取り組みを加えた点はどのようなところですか。</p>	<p>①参加者への教育、講習会の開催。 ⇒市民向けに、伐倒講習会(黒沢川)、薪造り講習会(穂高)を開催した。</p> <p>②既存の場所での活動ができないため、保安林の整備を始めた。 ⇒昨年までの区画は終了し、新たな山主さんの保安林の整備を開始した。</p>
<p>③事業実施の効果により、団体としてどのような発展が期待できますか。</p>	<p>市民との新たな繋がりや、山を整備してほしいという、山主との繋がりができる事を期待。 ⇒鳥獣被害対策(猿害)として、餌となるクリの木を伐って欲しいという市民の要望に応え始めた。     堀金アルタス、穂高悠生寮、個人宅3件     明科の山を購入して整備してほしいという人が現れた。</p>
<p>④模範的な事業で、他団体が参考として取り組める内容として、どのような点が挙げられますか。(他団体が参考となる貴団体の事業の特徴をご記入ください。)</p>	<p>地域以外の人々が、里山整備のボランティア活動に参加する数少ないケースであり、私達の取り組みや経験を参考に、多くの市民が里山整備に関っていく際の一助となる。 ⇒市民要望に応える講習会の開催。     市民要望に応える薪・玉切材の頒布会のイベント定着。     活動の成果(伐った木で作ったボールペン)が、市のふるさと納税返礼品になり、少しだが税収に寄与した。     補助金を頂くだけでなく、逆に市に貢献できる事例を示すことができた。</p>
<p><b>4 継続性</b></p> <p>①補助金交付終了後の活動を見据えた財源確保はどのように計画していますか。</p>	<p>①不足する金額は、会費を集めて活動する。     ⇒今の所、会費の徴収はしなくても良い状態。</p> <p>②活動を理解したサポーターへの薪の頒布。     ⇒サポーター(市民)への頒布会は5年、9回となった。</p>
<p>②事業を継続するための組織体制はどのように備えていきますか。</p>	<p>当会が活動の中心となるが、講習会に参加した方などで、『樹楽会サポーターの会』を作り、地域の人も活動に参加してもらう機会を増やす。 ⇒薪の頒布会を中心とするサポーターの人数は61名となった。余った材や薪の提供者(サポーター)が、1名でき、多くの人の需要に応える事が出来た。</p>

## 事業名

## 自然農を学び・実践し・楽しもう

団体名	Eisbar Platz アイスバプラットフォーム		
代表者名	大島 和美	構成人数	6人
活動拠点所在地	安曇野市穂高柏原942-3		
事業実施総額	400000円	補助金額	200000円
主な補助金使途	講師料・会場費・農作業で使用する備品購入		
事業実施日・期間	4月1日～3月31日まで		
事業概要・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度自分たちが自然農で育てた大豆を種とし、自然農法国際研究センターよりご指導いただき、実際に畑で実践し、みんなで学び・体験する。</li> <li>・自分たちで農作物を作ることにより、その楽しさ、大変さ、食の安全性、おいしさを体感し、子供たちから大人まで、みんなで食や環境、農について考えるきっかけを作る。</li> <li>・今年は安曇野市有明の畑にて、無農薬、無施肥、無除草剤で大豆を育て、夏には採りたての枝豆を、秋には大豆収穫し冬に味噌を仕込んだ。</li> <li>・コロナ禍で、多くの人を集めたイベントはなかなか難しかったが、オンラインなども工夫して、トマトソース作り、味噌作りなどを開催。</li> <li>・2020年度の途中からご縁があり、塩尻の田んぼでの稲作りの学びも始め、引き続き工夫しながら開催していきたい。</li> <li>・安曇野市、松本市、塩尻市の様々な農業に関わる方とお会いするご縁をいただき、さらに市民フェスタや軽トラ市に出店する機会をいただき、子供たちにとっても多くの学びの場となった。</li> </ul>		
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度は、大豆の収量を上げるために、雑草対策として耕運や種まきや除草の時期を工夫したことで収量が昨年の約10倍になった。</li> <li>・2022年度はさらに収量や作業効率のアップを図りながら、環境や自然との循環についても学ぶ機会を提供していきたい。</li> </ul>		

4月3日

「自然農法を知りたい」

講師：自然農法国際研究開発センター 三木さん  
田川公民館にて



自然農法、無農薬栽培等の言葉の違い、実際自分の畑にはどちらが適しているのかなど、講義を聴きながら色々知識を深めていきました。

4月17日

「野菜作りの計画&お悩み相談」

講師：自然農法国際研究開発センター 榎原さん  
穂高交流学習センターみらいにて



身近な家庭菜園についてのテーマだったので、多くの外部の方のご参加もありました。

大きなポイント  
土作り  
耕運機で耕します



雑草を小さなうちにすきこみます。

種まき  
昨年収穫した大豆を  
まきました

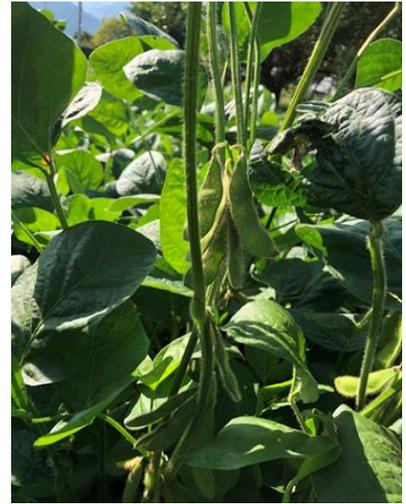


家族みんなで穴を掘って大豆の種まき 小さい子も大活躍

除草 畝上げ  
鳥よけのテグスも張  
ってきれいに整列し  
て成長してきていま  
す

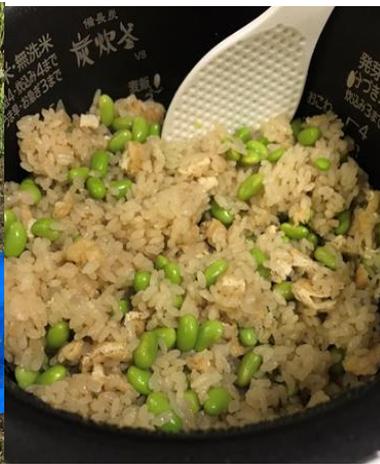


枝豆収穫  
子供たちも大活躍！



みんなで袋いっぱい  
の枝豆を収穫

早速炊き込みご飯を  
作った方も



島立て 脱穀



棒でたたいたり、足踏みしたり、、、脱穀作業も全力で

味噌作り

コロナ禍ということもあり、オンラインも併用しながら行いました



子供たちも選別したり、運んだり…  
自然の恵みをいただきます



各家庭の手前味噌が仕込めました♪

## 事業名 エジソンの母塾

団体名	学習支援センター実帰舎		
代表者名	家田典和	連絡先	57-6203
活動拠点所在地	塩尻市大門一番町 12-2 塩尻市市民交流センター協働オフィス	構成人数	15名
事業実施総額	400,698円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	安曇野市民への不登校実態理解啓蒙と不登校生徒らへの学習支援		
事業実施日・期間	令和3年(2021年)4月～令和4年(2022年)3月		
事業概要・成果	<p>① 8月29日に「不登校講演会」を開催した。 右 写真市民タイムス9月17日号</p> <p>② 子ども食堂の運営団体のホットライン信州との連携を始めた。貧困母子家庭へのパソコン支援及び情報科教育の学習支援を行った。 また、子ども食堂の開催協力のため、紙芝居公演で、食材を手にした貧困層の母と子へのお楽しみ提供と季節感ある物語を語った。小学生らに紙芝居上演の方法を学習支援の一環として教えた。</p> <p>③ 昨年度に学習支援をした池田工業高校の卒業生が、京都建築大学校へ入学後にも、順調に授業単位累積ができ無事進級できたとのこと。</p> <p>④ 不登校のたまり場の松本市の「はぐるぽ」との学習支援業務の提携が進むも、新型コロナウイルス蔓延のため安曇野市の2名の生徒さんへの学習支援は現在中断中である。</p> <p>⑤ 厚生労働省所管のハローワーク松本の協力を得て、「精神・発達障害しごとサポーター養成講座」の開催を豊科交流学習センターきぼうにて開催した。2021年8月6日</p>		
今後の展開	<p>① 次年度令和4年(2022年)度には、学習支援の軸足をこれまでの不登校生徒だけだったものから、貧困母子家庭の生徒さんへの情報教育支援と紙芝居作り指導へと移していく。</p> <p>② 2021年度にも新規に不登校支援を安曇野市内の小中学生4名に対して行ったが、「学業放棄型不登校」だったので鉛筆も拾って握らない拒否反応をしめたので、今後は無理強いはいしないこととした。</p> <p>③ 2022年4月に通信制高校に入学予定の女子生徒に対しての、前倒し指導を始め、中学時代の英語の遅れを挽回させる。</p>		



地域 Local News

講演会 聞きどころ

塩尻、安曇野市を拠点に活動する学習支援センター「実帰舎」は、不登校を考える大人に向けた講演会を開いた。子どもの支援・相談スペース「はぐルッポ」(松本市旭3)の西森尚己代表が「不登校を問い直す」をテーマに、実例を交えながら話し、約10人が聞いた。(8月28日)

子どもが不登校になると、学校や保護者は「なぜ」を追及する。いじめられる、先生と合わない、友達とコミュニケーションが取れない…。そういう原因を挙げて、対症療法を考えている。

西森尚己さん

子どもの支援・相談スペース「はぐルッポ」代表



実例を交えながら講演する西森代表

価値観とらわれず受け入れて

「半年以上たつて「高校に行きたい」と。遊んでいる子の隣で黙々と勉強し、Fではない高校に入った。今は、自分と同じような子の力になりたいと、大学でカウンセリングを目指している。」

でも、子どもの話を聞いてみると、何となく嫌いだ、疲れる、クラスの雰囲気が悪いと、曖昧な言い方をする。本当のところは複雑で、表現しにくいものだと思う。原因を子どもの側に求めていくと、もつと心理的に追い込むことになる。はぐルッポは、子どもが自分をとり戻し、自分で考え、自分で決めて、その一歩を踏み出すためのエネルギーを育むお手伝いをしていく。子どもたちがありのままの自分でいられて、安心して失敗することができる場所。ただいい場所であり続けたい。大人たちは、個々に寄り添うと言いつつ「普通」「常識」の物差し、世間の価値観で評価してきた。大人が、そのままいいと認め、粘り強く待つことで、子どもは自分の力で変わる。ある子は、父も祖父もF高校出身。でも、中2の冬、先生からF高校は無理だと言われると、自分に価値がないと思つて、部屋にこもり、死にたいと言つようになった。

母親が相談に来て、はぐルッポに来るようになった。魚のことに詳しく、近くの女鳥羽川でひたすら釣りをした。子ども観の当たり前を問い直し、家庭も、学校も行政も、世の中も、子どもたちを信じて、心の声を聞きながら変わっていくなければならない。(村上研志)

市民タイムス  
2021年8月3日  
日記事

市民タイムス (23) 令和3年(2021年)8月3日 火曜日

# 紙芝居作り 不戦を胸に

「秋水」の開発を題材にした紙芝居の一場面と家田理事長



語り継ぐ

## 戦争と平和

塩尻市を拠点に活動する学習支援センター「実帰舎」(家田典和理事長)が、子供たちに地域の戦争の歴史を伝えようと紙芝居を制作している。現在の松商学園高校(松本市)の敷地で、太平洋戦争末期に行われたロケット戦闘機「秋水」のロケットエンジン開発を題材にした。(土屋智彦)

### 塩尻の実帰舎 戦闘機・秋水の開発題材

戦争関連の紙芝居は3作目で、筋書きが完成し、絵コンテ作りを進めている。エンジンは細かな部分が多く作画に苦労している。資料を読み込み、噴射実験の苦難を話に盛り込んだ。これまでの作品に用いた絵も生かして11月までの完成を目指す。

松本地方で開かれることも食堂などで上演する。家田理事長は、エンジン開発が行われた技術力の高さに注目する。紙芝居を通じて「戦争の無意味さや、現在の技術につながる産業の歴史を考える機会にしてほしい」と話している。

◇ 終戦から76回目の夏を迎えた。年月の経過とともに、戦争の記憶が薄れつつある中、平和の尊さを見つめ直す機会としたい。地域で取り組んでいる平和を願う活動を紹介していく。(随時掲載)

市民タイムス

塩尻

発行所/市民タイムス:本社/〒390-8539松本市大字島立800番地  
TEL(0263) 受付47-7777 編集47-7774 広告48-2000 販売47-4755 ©市民タイムス2021年  
FAX(0263) 受付48-2422 編集47-1654 広告47-8585 販売48-2422 支社:安曇野・塩尻 支局:長野・木曾

塩尻支社/〒399-0746塩尻市大門並木町7-5  
TEL(0263)54-0085 FAX(0263)53-4442

市民タイムス

2021年11月28日

記事

不登校生徒と親御さんのための**高校説明会参加**

中信教育委員会が主催

11月1日松本合同庁舎

11月2日伊那合同庁舎

11月19日諏訪合同庁舎

12月16日松本合同庁舎

**9月30日**

小学生へのパソコン組み立て実習

**10月7日**

ホットライン信州の子ども食堂の学習支援として、紙芝居作成のノウハウを講義した。

①作劇法(ドラマツルギー)

②紙芝居の絵の描き方

(遠近法、シルエット省略法、明暗法など)

③人物による声の使い分け

**11月20日**

塩尻えんぱーく3階にて紙芝居上演

「飛べ ロケット戦闘機 秋水」

昭和20年に松商学園敷地で日本で初めてロケットエンジンの連続燃焼実験に成功した物語

(21) 令和3年(2021年)11月28日 日曜日

市民タイムス

塩尻市を拠点に活動する学習支援センター・実帰舎は27日、松本市島立の県松本合同庁舎を会場に開かれた「紙芝居」のエンジン開発をテーマにした紙芝居を披露した。典和理事長が絵やあらすじ

実帰舎 松本で披露

## 戦闘機エンジン 開発話 紙芝居に



紙芝居を披露する家田理事長

を手に掛けて最近完成した。8枚構成で、松商学園高校(松本市)の敷地でエンジンの噴射実験が何度も行われたことを伝えていくという。家田理事長は「戦地からは遠かった松本でも、戦争の記憶が数多く残る。後世に語り継ぐ必要がある」と話している。(北原 哲)



## 事業名 食と健康の情報発信

団体名	食養生研究会		
代表者名	辻野将之	構成人数	約70人
活動拠点所在地	穂高有明		
事業実施総額	983,464円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	勉強会等講師料・会場代		
事業実施日・期間	2021年4月～2022年3月		
事業概要・成果	<p>・事業概要</p> <p>日本に古くから踏襲されてきている、食と健康の叡智である食養生について学び、また情報の発信を通じて啓もうし、地位住民の健康に寄与する。</p> <p>・成果</p> <p>毎週木曜日の午前中に活動。毎回10名前後、のべ371名の参加がありました。(3月頭の途中経過、42回開催時点)</p> <p>新規会員登録に加え、また未入会ながらスポット参加の方も多く、トータル計画以上の方々に食養生の魅力を発信できた。</p> <p>地域の活性化及び参加者の健康意識の向上が得られ、地域の方々の健康意識の向上と予防及び事故対処方法を身に着ける一助となれた。</p>		
今後の展開	<p>今年の成果を良いモデルケースとして、来年度も同様の企画を実行し、より多くの地域の方々に浸透させていきたい。</p> <p>特に勉強会以外の実技的なイベントをより多く組み込めればとも考えている。</p>		

日本はちみつの養蜂をされている方を講師に招き蜂蜜しぼり体験。  
またミツロウを利用したミツロウクリーム作りなど体験型のイベントもたくさん開催できました。



一年間、自然栽培の田んぼを通じて日本人の主食について学びました。



今年も多くの方々に田植え体験に来ていただき、草取りもできたおかげで稲がたわわに実りました。



こんなご時世なので、機材をそろえ Web 参加もできるようにしました。



サステイナブルな生活の  
実践者訪問で、自然農の  
畑見学&食事会。



自然栽培農家を訪れ野菜  
作りを学び、自家製小麦  
のうどんをいただく。



電磁波についてのお勉強。  
おやきや野沢菜など  
信州の伝統を学ぶ。



ハーブガーデンの見学と  
生ハーブティー体験。恒  
例の餅つきも複数回開  
催！！



映画上映を通じて、「タ  
ネ」の問題を掘り下げて  
学ぶ。  
また吸玉療法など民間療  
法の実体験をからめた学  
びもあった。



ん

## 事業名 岩原のタカラをガイドブック片手に楽しもう

団体名	岩原の自然と文化を守り育てる会		
代表者名	百瀬 新治	構成人数	50人
活動拠点所在地	安曇野市堀金烏川 岩原区内		
事業実施総額	381,541 円	補助金額	190,000 円
主な補助金使途	岩原区内文化施設等看板埋設、希少道祖神移転設置委託料、標柱資材		
事業実施日・期間	令和3年9月28日～令和3年10月2日		
事業概要・成果	<p>過年度において地元岩原区内に潜在する「岩原のタカラ」をガイドブックとして製作した。</p> <p>その中に掲載されている各ポイントを巡る周遊モデルコースの看板を設置し、周遊ガイドを実施。</p> <p>坊々巡りについては3日間4回実施し区外も含めて約200人参加。ラジオでも報道されたこともあり、市民及び県外からの参加も得ての活動効果に繋がった。</p>		
	 <p>顔欠道祖神                      周遊案内コース3記カ所設置      事業協力金箱2カ所設置</p>		
今後の展開	<p>今後はそれぞれの坊々に表示板を設置し、ガイドブックを活用した活動等をインターネット等で広める事業が残されているが、国営公園や、他団体との連携事業を定期的実施することで事業の拡充を図っていく。</p>		

## 事業名 尺八・やってる会

団 体 名	ABC（安曇野バンブーフルートサークル）		
代 表 者 名	石曾根 一雄	構成人数	5名
活動拠点所在地	安曇野市三郷温 楡		
事業実施総額	169,376円	補助金額	54,000円
主な補助金使途	講師謝礼・初心者体験用尺八購入など		
事業実施日・期間	令和3年6月1日～令和4年3月31日		
事業概要・成果	<p>・初心者体験会 2回実施（3月に1回実施予定）</p> <p>・コンサートの開催</p> <p>〈公共性〉 市民活動サポートセンター通信にコンサート開催記事を掲載。 「安曇野文化」に会員の尺八への思いを掲載。 ポスターによりコンサートの周知を図る。</p> <p>〈他団体との交流〉 ・朝市での尺八演奏の依頼を受け、見学に行く。朝市の主催者にコンサートを見に来ていただいた。今年度は実現しなかったが、来年度への交流ができた。</p> <p>〈発展性〉 尺八を通じて「和の文化」に興味を増し、親しんでいきたい。そのことにより、尺八や音楽を地域の人たちに楽しんでもらう。</p>		
今後の展開	尺八の音色を聴いてもらったり、見てもらったりする機会を作り（年3回を目標）地域の人たちに尺八を身近に感じてもらう活動を行っていく。		



10月16日(土) 第1回初心者体験会↑



11月6日(土) 第2回初心者体験会



11月6日(土)

コンサートでの演奏

# 尺八で唄える日を夢見て

ABC(安曇野バンブーフルートサークル代表)

三郷 石冪根 一雄

ABC(安曇野バンブーフルートサークル)は、竹内輝山先生にご指導をお願いして、3年と半年が経とうとしています。

師匠とは月一回(壬日祭日の都合の良い日)。サークルメンバー(現在も名)だけでは、月一回程度の集まりで、三郷温の楡公民館で練習をしてきました。

私が尺八をやると思うようになったのは、テレビで藤原道山演奏の「琥珀の道」を聴いた時



楡公民館での発表

で、とても感動しました。吹き手の曲に対する思いもあつたかもしれませんが、尺八の音色・深さに魅了され、いつか自分も吹いてみたいと思い、始めようと思いました。3年経ちますが、むずかしいです。

Sさんは?

私が尺八に興味を持ったきっかけは、2018年2月の楡公民館の発表会で、竹内師匠の「もののけ姫」の演奏を一回聴いただけで、素晴らしいと感動しました。その時、バイオリンとの共演を申し出て、その年の4月の「住吉神社の神楽殿ライブ」で、共演の夢が叶いました。(YouTubeで現在も視聴できます)

神楽殿ライブのリハーサルのあとに尺八サークルがあつたので、見学、体験

来られ尺八の講習会もやってくれました。しかし、日々の練習にはつながらず、どなたかに指導を受けたいと思つていた時、現在の師匠に会えたのです。

それではここで、ABCのメンバーが、どんな願いや夢をもつて、会に参加したのか紹介させていただきます。

## Yさんの場合

2018年の元旦、近隣の4件ほどの地区組合で、楡地区の楡公民館で新年会がありました。その席で、石冪根一雄さんと久しぶりにお会いしました。彼と私とは昔から趣味が合うというか、ジャンルが違いましたがと

した。その後、道山さんが5年経って松本市民芸術館にコンサートに

にも音楽好きで、しかも聴く側の話より、楽器を「やる」側の話が多かつたと思います。その新年会でも例外ではなく、最近、尺八にはまっているとのこと。聞くところによると、一年以上前、穂高神社で、現在のわれわれの尺八の会の先生でもある竹内輝山氏の演奏があり、その音色がなんとも素晴らしい。ますます尺八が大好きになつたとのこと。自分も何とかして尺八が上手になりたいという一心で、練習場を確保したり、竹内輝山氏に何度も直談判したりして、その努力が実り、輝山先生が伊那から安曇野まで教習に来てくれる、という確約まで取り付けたという恐るべき内容を延々と語つたのです。そして次の言葉は『一緒に尺八をやりますよ』でした。そして今日があるのです。

## Mさんの場合

初めて尺八を家で見たのが、もう数十年前のことでした。口が少しかけていましたが、吹くと音が出ましたので、

これをいつか吹けるような時が来るのかと思つていました。それが、三年前の芸能発表会があり師匠との出会いがありました。「夕焼け」という曲を吹かれたときに、曲の情景が目に浮かんできて、とても感動しました。

吹き手の曲に対する思いもあつたかもしれませんが、尺八の音色・深さに魅了され、いつか自分も吹いてみたいと思い、始めようと思いました。3年経ちますが、むずかしいです。

させていただいたのですが、全く音が出せずに悔しいと思つたのが、尺八を始めるきっかけになりました。練習用の尺八を貸していただいたので、車の信号待ちなどで音を鳴らす練習をし、吹ける音がだんだん増えてきました。

その後、竹内師匠の尺八、バイオリン、ギターで『バンフォーレ』というユニットを組ませていただき、安曇野コンサートホール、榊池のお祭り、地



バンフォーレ (佐々木たか子、師匠、波多野太)

域の発表会、楽蔵ひあのなどで演奏させていただき、新聞、テレビなどにも数回取り上げていただいております。

## Fさんのキツカケ

Yさんから、カフェで演奏会があるからと誘われ、聴きに行ったのが尺八との出会いでした。元来音楽は好きで、三味線などの和楽器にも興味があり、その後、練習会に顔を出したとき、ひよんな(?) ことから尺八も購入し、現在(いま)に至つています。

このようなメンバーが集い、おしゃべりの時間も大切にしながら練習しています。

尺八、ちよつと気になるという方、一緒にやってみませんか!

## 問い合わせ

携帯 080-5146-6519 石冪根

(ABCは、尺八やつてる会として、市のつながりひろがる地域づくり事業に参加しています)

(いそね かずお)

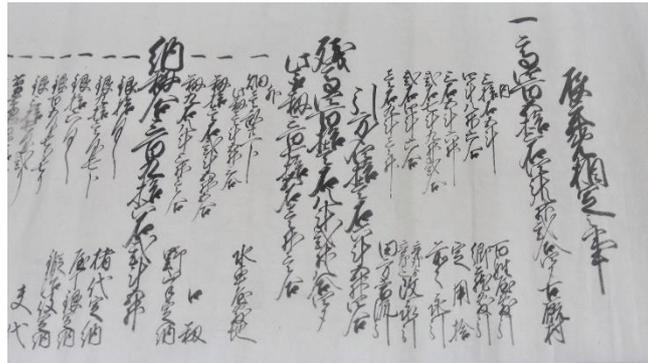
**事業名** 古厩を中心に歴史や文化遺産を明らかにし、ひいては有明地域の文化遺産への関心を高める

<b>団体名</b>	ふるさとの歴史や文化をたずねる会		
<b>代表者名</b>	百瀬宗治	<b>構成人数</b>	37名
<b>活動拠点所在地</b>	長野県安曇野市穂高有明古厩 6334-2 古厩会館		
<b>事業実施総額</b>	426,500円	<b>補助金額</b>	200,000円
<b>主な補助金使途</b>	冊子作成の準備、刊行、頒布		
<b>事業実施日・期間</b>	令和3年 4月 1日から、終了予定 令和4年 3月 31日まで		
<b>事業概要・成果</b>	<p>事業概要</p> <p>1 冊子「有明山をめぐる里の物語」刊行  1 月中に印刷原本完成  2 月刊行  配布の第一段階として、古厩区民、市関係者、公共施設、図書館学校への配布。  発表会として講演、経過の報告。  また、刊行、講演会の日時などをマスコミにより周知。</p> <p>2 掲示板の設置  史跡、堰などへの看板の設置を穂高北小学校の授業の中で取り入れてもらうため実施時期を見計らっていたが、コロナ禍のため延期</p> <p>3 地域づくり関係団体との協議  巡見計画の作成</p> <p>4 穂高北小学校との協議  どの学年にいつどんな方法で学習に取り入れられるか等。</p> <p>成果  冊子刊行により古厩区民へ大規模なアンケートや聞き取りを行ったことなどにより地域の歴史、文化財等への関心が高まった。</p>		
<b>今後の展開</b>	<p>マスコミを生かし、地域づくり諸団体との見学会を実施する。</p> <p>穂高北小学校への出張授業は年間計画に入れてもらい実施したい。</p> <p>内容として有明原の天蚕飼育、イギリスやフランスなどとのかわり。</p> <p>またコロナ対応の関係で、年度内に実施が難しかったものなどを含め、情勢を適宜判断しながら実施していきたい。</p>		

石造文化財をはじめ、地域内の史跡の調査の実施。



古文書などの解読や旧地図から読み解く地域の土地利用の変遷など、歴史調査などを行いました。



冊子表紙



安曇野市市民協働事業提案制度 実施報告

事業名 アズミノミライ cafe

協働事業 実施団体名	あづみのファシリテーション部!	安曇野市	地域づくり課
代表者名	森岡 俊道	代表者名	高橋 延行
活動拠点所在地	安曇野市役所		
事業実施総額	0円		
事業実施日・期間	令和3年10月～令和4年3月		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p><b>【事業概要】</b>                      ファシリテーションラフィックを使い行政課題と市民が「まちづくりを、たのしく身近に」考え、解決策を創出したいという想いで事業を計画した。残念ながら行政からの参加はなかったが、公募した「子育ての困りごとを解決したい」想いを持った市民有志とファシリテーションラフィックで会議を活性化し、参加者のアイデアを可視化しながら推進できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーターが参加者の意見を引き出し、毎回まとめを行う</li> <li>・グラフィッカーが出てきた意見を模造紙に書き留める</li> <li>・参加者が会議の目的やアイデアをどんどん出す</li> </ul> <p><b>【成果】</b>                      ・困りごとと解決策が一目でわかる「子育て人生ゲーム(仮称)」を出席者のアイデアからつくることが出来た。                      ・今後も一部メンバーと継続して市民活動を行うことになった。                      →想いを持った市民が継続して活動できるきっかけ作りが出来た。</p> <p><b>【今後の展開】</b>                      「子育て人生ゲーム(仮称)」も今後も発展させて子育ての困りごと起点で市民とNPOや市民活動を継続する。希望として、継続するメンバーに加えて、想いのある行政の方の意見を取り入れてアイデアを膨らませたい。</p>		
役割分担	<b>協働事業提案団体</b>	<b>市</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画の検討</li> <li>・ワークショップの場の設定、運営、ファシリテーション、内容のまとめ</li> <li>・情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画の検討</li> <li>・参加者募集チラシの作成、配布</li> <li>・市広報誌、ホームページへの掲載</li> <li>・必要機材や会場の確保</li> <li>・参加者との連絡調整</li> <li>・情報発信</li> </ul>	



安曇野市 市民生活部 地域づくり課

〒399-8281 安曇野市豊科6000番地

(市役所本庁舎 2階 4番窓口)

電話：0263-71-2494 (直通)

FAX：0263-72-3176